



## 4年生の研究授業が行われました

学校では、毎年度研究教科を一つ決め、授業研究を行います。今年は、算数科とし、テーマを「自分の考えと友達の考えをつなぎ、よりよく学び合う子供の育成～考えをつなぐための手立ての工夫～」とし、授業のあり方について研究しています。

第1回目は4年生の平行四辺形の特徴について学ぶ時間でした。4年生の学び合う姿に、全職員が感心しながらの参観となりました。よかったところがたくさんありますが、3つだけ紹介します。

### ① 友達の発表にしっかり反応している。

これは学び合いには欠かせないことです。発表している人の方に身体を向ける、「発表します」に「はい」と答える、友達の考えを自分の言葉で説明するなど、何かの反応をしています。友達の声に耳を傾けているということは素晴らしいことです。積極的な学びの素地ができているとも言えます。

### ② 算数用語を使い始めている。

今日は「向かい合う」「平行」「辺」「角度」などの用語を使って説明することが求められる内容でした。45分間の中で、長さや角度を測る作業で確認したり、友達に「向かい合っている」の言葉を使って説明したりとあらゆる場で用語を使っていました。理由を説明できることを何度も問い返されることで、理解が深まったようです。

### ③ 時間を上手に使っている。

一つの作業から次の作業への切り替え時間が、4月に比べ各段に早くなっています。無駄な私語が一切なく、さっと動きます。そのため、45分の授業内にできることが増えます。集中力があがっているとも言えるでしょう。クラス全員がこのペースで動けるようになるまで、あと一歩です。



## 規範意識を育てる

集団生活には様々な約束事があります。小学校段階においては、子どもたちが初めて出会う「公共の場」として、約束事を指導していきます。特に、1, 2年生において身に付けた規範は、高学年まで影響します。学校の当たり前ができるようになって、中学年を迎えられるように意識しています。

先週、1年生の子どもたちと昼休みに折り紙をしていたら、こんな会話が聞こえてきました。

「友達に悪いこといっちゃいけないだよ。」「おうちの人も言ってたもん。」この会話からは、学校で先生から指導を受けたことや、ご家庭でも同様のことを話していただいていることが伝わってきます。このように双方が同じ方向で指導をしていくことが、子どもたちに適切な判断基準をつくっていくことになります。

高い規範意識をもつことにより、将来的には社会的に認められたり、周囲からの信用を得られたりすることになります。それは結果的にやりたいことをやれる、経済的にも豊かになれる、温かな人間関係をもてるなど、幸福感を感じることに繋がることと考えています。

約束を守ることは、強制ではなく、自分も周りも気持ちよく過ごせることだということを、根気よく子どもたちに伝えていきたいと思っています。